

巻頭言

変革の時代を牽引(けんいん)するDX： 業務改革を通じた持続可能な社会への貢献

DX Driving Era of Change: Contributing to Sustainable Society through
Business Reform



佐野修也 *Shuya Sano*

デジタルイノベーション事業本部 DI戦室戦略ユニット 副ユニット長
Vice Unit Manager, Strategic Planning Dept, Strategic Planning Office, Digital Innovation Group

現在、私たちは“第4次産業革命”という歴史的なパラダイムシフトの渦中にあります。サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合し、産業構造そのものが再定義される中で、世界情勢は一層の複雑さを増しています。グローバルな社会経済情勢の変動や、経済安全保障への関心の高まりは、サプライチェーンの在り方に抜本的な見直しを迫っており、企業にはかつてないレジリエンス(強靱(きょうじん)性)と、変化に対する柔軟な適応力が求められています。このような不透明な環境下で、持続可能な社会を築くための確かな鍵となるのが、デジタルトランスフォーメーション(DX)です。

DXの本質とは、単なる既存業務のデジタル置換ではなく、最新テクノロジーを前提とした“業務改革”そのものにあります。現在のビジネス環境で、クラウドネイティブ基盤構築や、分散したデータを論理的に統合するデータマネジメントの整備は、新たな価値を創造するための不可欠な基盤となりました。この強固な基盤の上で、いかにして従来の組織慣習を打破し、データ駆動型の意味決定へと業務プロセスを根本から再設計できるか、この“業務改革”の成否こそが、企業の真の競争力を左右するものと考えています。

特に近年の生成AIによる技術革新は、知的な生産活動の在り方を一変させました。しかし、これはまだ変革の序章にすぎません。今後は、生成AIで培われた高度な推論能力が、現実世界の動的な制御や物理現象の最適化と結び付く“フィジカルAI”の実現が加速していきます。製造現場や社会インフラといった物理空間での意思決定がAIによって自律化・高度化されるフェーズへと移行し、この分野でも、従来の技術進歩のサイクルをはるかに凌駕(りょうが)するスピードで進化していくことが見込まれます。

三菱電機グループでは、こうした時代の要請に対して、デジタル基盤“Serendie”(セレンディイ)を核とした“循環型 デジタル・エンジニアリング”を推進しています。Serendieは、多様な事業領域から得られる現場データと知見を循環させ、顧客とともに新たな価値を共創するためのプラットフォームです。物理空間の事象をデジタルで精緻に捉えて、AIによる最適化を経て再び現場へと還元する、このサイクルを極限まで高速化させることこそが、私たちの目指す業務改革の姿です。

本号に掲載された各論文は、私たちがこの壮大な変革に挑んだ足跡であり、DXという長い旅路での“変革の入り口”を象徴するものです。データガバナンスの確立や業務プロセスの再構築、そして最先端AIの社会実装に向けた試行錯誤といった、これら一つ一つの取組みは、単なる技術的成果の報告にとどまらず、私たちが既存の枠組みを超えて自己変革を開始したことの証左でもあります。

しかし、これらはいくまで通過点にすぎません。DXの実現に向けた道のりは険しく、技術進化の速度は今後更に加速していきます。本号に記された成果を一つの到達点とするのではなく、急速に具現化する未来への“重要なマイルストーン”として位置付けて、私たちは立ち止まることなく、スピード感を持って変革を推進してまいります。三菱電機グループは、技術の限界に挑み続け、自らの業務を絶え間なく改革することで、社会課題の解決と持続可能な未来の創造に邁進してまいります。